

第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会準備状況について

第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会 大会長

森村尚登

会期:2023年7月27日(木)～29日(土)

会場:帝京大学板橋キャンパス

〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1

テーマ:救急医療の可視化と暗黙知

ホームページアドレス:<https://site.convention.co.jp/jsem26/>



会期:2023.7.27^木-29^土

救急医療の可視化と暗黙知

会場:帝京大学板橋キャンパス
会長:森村尚登(帝京大学医学部救急医学講座 主任教授)

副会長:東京都医師会副会長 猪口正孝
東京消防庁救急部長 門倉 徹
東京都看護協会看護制度委員会 委員 浅香えみ子

開催形式:ハイブリッド開催(現地+オンデマンド)

※オンデマンド配信期間:

2023年7月27日(木)～2023年8月31日(木)

演題募集期間:2022年12月1日(木)正午～2023年2月7日(火)正午

→最終登録演題数:421演題

▼内訳

主題関連演題 17題

一般口演 347題

ポスター 57題

参加登録:	早期(6月1日-30日)	通常(7月3日～)
会員(非医師)	9,000円	11,000円
会員(医師)	11,000円	13,000円
非会員	15,000円	17,000円
学生・初期研修医	無料	無料
消防機関	8,000円	10,000円

プログラム:

■ 会長講演

「救急医療の可視化と暗黙知」

森村尚登(帝京大学 医学部 救急医学講座)

■ 特別講演

「救急医療における生成系AI利用とIoT」

坂村 健氏 (INIAD(東洋大学情報連携学部))

■ 教育講演

1) 撮影現場における『暗黙知』

その実際と化粧によるモチベーションと皮膚感覚の効果

中村 成一氏(武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科)

2) Tele ICU、デジタルヘルスが開く未来

大嶽 浩司氏(昭和大学藤が丘病院 再整備準備室)

3) 『夜と霧』『それでも人生にイエスと言う』 フランクルの伝言をたどる

河原 理子氏(東京大学大学院 情報学環)

4) 学問領域をつなぐ 看護学と医学

有賀 徹氏(独立行政法人労働者健康安全機構))

5) 温故知新:情報資産の管理・利活用とデジタルアーカイブ

國枝 孝之氏(香川大学 創造工学部 造形・メディアデザインコース)

6) パンデミックで翻弄された国際医療搬送の振り返りとこれから

葵 佳宏氏(インターナショナルSOSジャパン)

7) 矯正医療の現状と課題 救急医療との関わり

宮本 哲也氏(法務省矯正局)

8) 緊急時に思いを伝えあうー救急活動コミュニケーションの心理学ー

木村 昌紀氏(神戸女学院大学 人間科学部 心理・行動科学科)

9) 脊髄損傷に対する急性手術の重要性 ～脊髄再生を見据えて

須田 浩太氏(北海道せき損センター)

10) 手運航乗務員の育成と技倆の伝承

平松 譲治氏(全日本空輸株式会社 フライトオペレーションセンター
品質企画部 CBTAチーム)

11) 米国救急医療、プレホスピタル医療の現状と取り組み、日本とつなぐ

中嶋 優子氏(エモリー大学 医学部 救急部)

■ 座談会

複数同時ゲスト対応の極意:バー マスターの視点から
高瀬 健一氏(Bar Barista)、林 邦光氏(Bar Tio 2ndo)

■ 特別企画

日本賠償科学会/日本救急医学会合同委員会:ラウンドテーブルディスカッション:
救護者保とトリアージに関わる法制化に向けて

■ シンポジウム

- 1) どうする? 「緊急度」の概念の整理
- 2) どうする? 救急患者受け入れの不応需

■ パネルディスカッション

- 1) どうする? マスギャザリングイベントにおける医療対応
- 2) どうする? 119 番入電から始まる救急活動における情報伝達
- 3) どうする? 救急診療と電子カルテ:電子カルテに求めるもの
- 4) どうする? 各職種から見た救命救急領域の早期栄養介入管理
- 5) どうする? 専門認定制度への期待と展望
- 6) どうする? ドクターカー・ドクターヘリ:救急現場急行と病院間搬送
- 7) どうする? 救急診療の体系的アプローチ
- 8) どうする? 治療可能時間域(TTW)を意識した急性期傷病者対応

■ ワークショップの公募 ※一部指定

- 1) どうする? 救急医療体制におけるタスクシフト・タスクシェア
- 2) どうする? 小児・妊婦の救急傷病者対応
- 3) 事例に学ぶ:多職種連携のノウハウ
- 4) 事例に学ぶ:急変の前の気づき、急変時対応のノウハウ
- 5) どうする? 救急医療情報 Dx(デジタルトランスフォーメーション):病院前と院内の救急医療情報の連結
- 6) どうする? 救急救命士の医療機関内での役割
- 7) どうする? Advance Care Planning(ACP)の普及

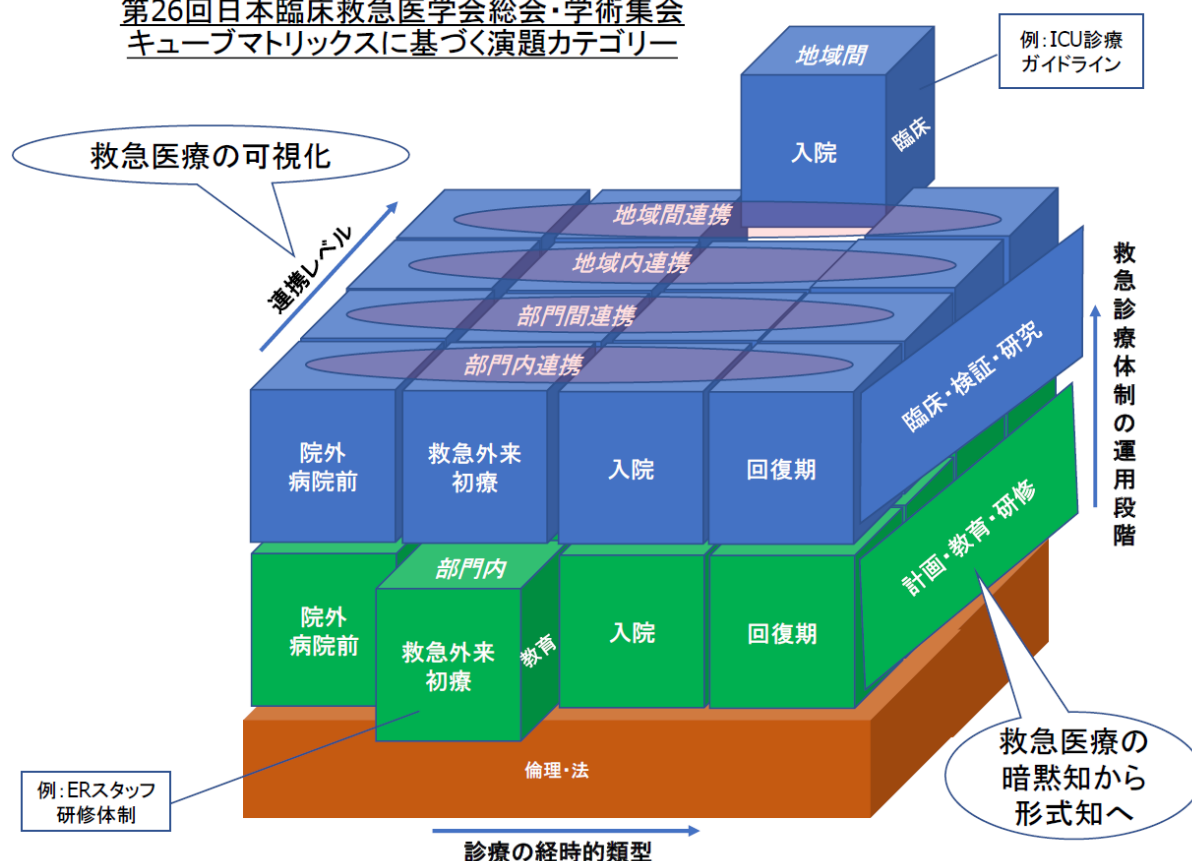
■ Pros/Cons セッション

- 1) 院外心停止への対応 Load and Go vs. Stay and Play
- 2) 小児病院前救護の質の向上 特定行為の充実 vs. ドクターカーの充実
- 3) ICT が救急医療にもたらす変革: その功罪について

■ 口演・ポスターセッション

演題を下記のように分類

第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会 キューブマトリックスに基づく演題カテゴリー



■ 緊急報告

- 1) G7広島サミット医療対応報告会

■ 委員会報告

- 1) 日本臨床救急医学会救急活動時の救急隊の活動向上に向けた検討委員会
- 2) 医療機関に所属する救急救命士に関する検討委員会(予定)

■ 合同企画

- 1) 救急往診協会: 救急往診の現在と将来を語る～救急医療における往診医学の必要性
- 2) 臨床栄養学会: 各職種から見た救命救急領域の早期栄養介入管理加算における現状

と課題

- 3) 日本蘇生学会:シンポジウム「日本の蘇生学・医療 これまでとこれから」
- 4) Healthcare BCPコンソーシアム共催 市民公開講座:高齢社会がもたらす災害・救急医療の課題と病院の役割

■ 専門領域講習・研修会

- 1) 専門医共通講習
 - ・ 救急医療における医療倫理と研究倫理 山勢 博彰 先生
 - ・ 医療における感染防止対策の今後 大曲 貴夫 先生
 - ・ 医療事故への対応 中村 京太 先生
- 2) 救急科領域講習
 - ・ 傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生のあり方
 - ・ 外傷診療チームの育成と実践(仮題)
 - ・ 可視化による子どもの事故予防(仮題)
 - ・ 自殺企図者の動向・ケア(仮題)
 - ・ 救急活動におけるLVOスケールの標準化に向けた研究結果(予定)
 - ・ 法的脳死判定基準(仮題)

■ 併設コース(日本臨床救急医学会)

- ・ PEMEC ポストコンgressコース
- ・ J-CIMELS 救急科向けベーシックコース
- ・ 小児病院前救護トレーニングコース
- ・ PPST(Prehospital PEEC Skill Training)コース

■ その他の講習会

- ・ 日本救急看護学会のトリアージコース
- ・ 救急隊員のための救急現場のコミュニケーション
- ・ JPTEC ブラッシュアップセミナー
- ・ ICLS ブラッシュアップセミナー
- ・ MIMMS 日本委員会
- ・ 民間救命士統括体制認定機構

■ 併設会議

- ・ 日本臨床救急医学会全国消防長会推薦評議員連絡会
- ・ 全国メディカルコントロール協議会連絡会

【日本臨床救急医学会 令和5年度第1回理事会・評議員会 報告資料】

第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会 実施案

2023年6月8日

第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会

大会長 富岡 譲二

(社会医療法人緑泉会 米盛病院)

開催形式：Web開催＋一部集合型

ほとんどの演題はWebで事前公開

Web上でのディスカッションに加え、オンラインでの討論も行う

単位認定も可能な限りオンデマンドで

一部の講演・展示・市民公開講座は鹿児島市内で実施

開催日程

Web：2024年7月初旬

集合型：2024年7月18日（木）～20日（土）

(参考) 第51回日本集中治療学会 2024年3月14日（木）～3月16日（土）

38回日本外傷学会 2024年4月25日～26日（溝端先生）

第50回日本熱傷学会 2024年6月13日（木）～14日（金）（織田先生）

第46回日本中毒学会 2024年7月24日（水）～25日（木）（有吉先生）

開催場所（集合型）

かごしま県民交流センター（〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号）

運営会社

MBC開発株式会社 広告事業本部 広告部（全体管理）

<https://www.mbcad.jp>

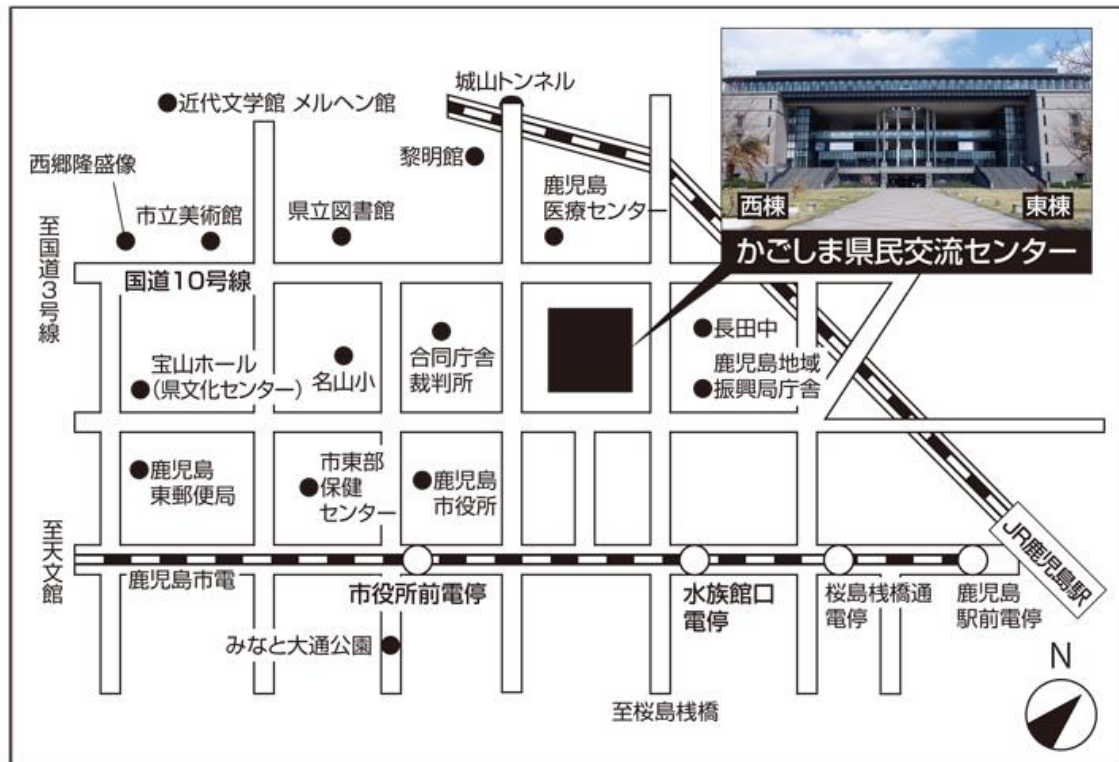
Confit（IT部門）

<https://about-confit.atlas.jp>

■かごしま県民交流センター ※通常、東棟3階(または4階)を使用

■所在地 鹿児島市山下町14-50
T E L:(099)221-6600

■交 通 JR「鹿児島駅」下車 徒歩7分
市電「市役所前」「水族館口」下車 徒歩3分



県民ホール
多目的ホール
展示ロビー
学習室
研修室

< 予算案 >

支出

【事前準備業務】

業務内訳	数量	単位	単価	金額
①事前参加登録受付関係業務	1	式	¥3,100,000	¥3,100,000
②演題受付関係業務	1	式	¥1,472,000	¥1,472,000
③印刷製本費	1	式	¥1,447,000	¥1,447,000
④旅費交通費	1	式	¥0	¥0
⑤通信費	1	式	¥855,400	¥855,400
⑥備品・消耗品費	1	式	¥0	¥0
⑦ホームページ制作および更新・管理費	1	式	¥2,580,000	¥2,580,000
			小計①	¥9,454,400
【当日運営業務】				
業務内訳	数量	単位	単価	金額
①会場、付帯設備費(映像・音響・照明等)	1	式	¥4,372,300	¥4,372,300
②看板制作費	1	式	¥590,500	¥590,500
③備品関係費	1	式	¥37,800	¥37,800
④当日運営委託費(当日運営スタッフ)	1	式	¥1,360,200	¥1,360,200
⑤会場設営費	1	式	¥980,000	¥980,000
⑥企画・管理費等	1	式	¥3,351,480	¥3,351,480
			小計②	¥10,692,280

小計①＋小計②	¥20,146,680
消費税	¥2,014,668
	¥22,161,348

収入

【総収入試算(案)】※参加者約2,000名の場合					
科目	数量	単位	単価	金額	備考
参加費収入					
会員(非医師)※早期	300	名	8,000	2,400,000	
会員(非医師)	250	名	10,000	2,500,000	
会員(医師)※早期	300	名	10,000	3,000,000	
会員(医師)	400	名	12,000	4,800,000	
非会員 ※早期	130	名	12,000	1,560,000	
非会員	300	名	14,000	4,200,000	
学部学生、初期研修医 ※早期	70	名	2,000	140,000	
学部学生、初期研修医	30	名	2,000	60,000	
消防機関 ※早期	200	名	7,000	1,400,000	
消防機関	70	名	9,000	630,000	
	2050		小計1	20,690,000	
広告関係費					
プログラム表4(カラー)	1	社	200,000	200,000	
プログラム表2(1色)	1	社	130,000	130,000	
プログラム表3(1色)	1	社	130,000	130,000	
プログラム後付1頁(1色)	5	社	80,000	400,000	
プログラム後付1/2頁(1色)	6	社	50,000	300,000	
			小計2	1,160,000	
補助金					
学会本体拠出金	1	式	2,000,000	2,000,000	
MICE開催補助金	1	式	150,000	150,000	
			小計3	2,150,000	
協賛金					
共催セミナー	5	社	500,000	2,500,000	
協賛金	1	式	500,000	500,000	
			小計4	3,000,000	
その他					
抄録集販売	500	冊	1,000	500,000	
			小計5	500,000	
合計(A)				27,500,000	